

令和5年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和5年7月18日（火）

【藤井（保健医療課課長）】 本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

また、令和5年5月の委員任期満了に伴いまして再任のお願いをさせていただきましたところ、快くお引受けをいただきまして、重ねてお礼申し上げます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

なお、本日は西村委員が所用のため御欠席ということですので御報告いたします。

それでは、会議に先立ちまして、桑名市保健福祉部長の堀田から御挨拶を申し上げます。

【堀田（保健福祉部部長）】 皆さん、こんにちは。保健福祉部長の堀田でございます。

本日は、お忙しい中、桑名市総合医療センター評価委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素は地域医療をはじめ、市政各般にわたり御理解と御協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年度、桑名市総合医療センターでは、これまで同様に新型コロナウイルスに対する診療体制を継続し、地域の中核病院の役割を担っていただきました。

市といたしましても、これまでの経験を踏まえ、今後の流行に対してもしっかりと危機感を持ち、総合医療センターと協力しながら、医療提供体制の維持に取り組んでまいりたいと考えております。

この後、令和4年度の業務実績につきまして御協議いただきますが、委員の皆さんにおかれましては忌憚のない御意見いただくことをお願いいたしまして、甚だ簡単ではございますが、私の冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、座ったままで失礼いたします。

会議に入ります前に資料の確認をお願いします。

令和5年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会の次第、次に、令和4事業年度に係る事業実績報告書、次に、財務諸表などその添付資料といたしまして、決算報告書、監査報告書、事業報告書がございます。その次ですが、資料1、損益計

算書における前年度との比較、参考資料1、業務実績報告書の構成、参考資料2、医療センターの業務実績に関する評価の基準、参考資料3、第3期中期目標、参考資料4、第3期中期計画、参考資料5、令和4年度計画、それから、お席に席次表を置いております。不足などございませんでしょうか。

それでは、本日の議事進行につきまして、御説明いたします。

参考資料については、実績報告書の構成、こちらを御覧ください。

令和4事業年度業務実績報告書の項目の対応するページ数、法人の自己評価を記載しております。

この大項目の第1から第3までが評価項目となっております。

評価につきましては、まず、事務局から業務実績と法人の自己評価の御説明をし、次に、委員の皆様から御質問、御意見と評価をいただきます。

御説明については、大項目1は中項目ごと、大項目の第2、第3は大項目ごとにいたしますので、大項目1は小項目ごとに、大項目2は中項目ごとに、大項目3は大項目で評価をお願いいたします。

なお、本日の委員会は、午後4時半に終了予定となっておりますので、それ以降は次回にお願いしたいと考えております。

それでは、豊田委員長、会議の進行をお願いいたします。

**【豊田委員長】** それでは、今年度も同じ委員の皆様方で評価をお願いするということですが、皆さんもベテランになっておられますので、スムーズに進行させていただきたいと思っております。

そういうことで、今日、できなかった部分は、また7月25日ですかね、続いてあるということでございます。

それでは、大変暑い状況ですが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、評価を始める前に、まず、桑名市総合医療センター竹田理事長より、何かございましたらお願いいたします。

**【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】** どうも本日は大変お暑い中、また、週明けの非常にお忙しいときにお集まりいただきまして、ありがとうございます。

令和5年度の第1回の評価委員会ということで、どうぞよろしくお願ひいたします。

先ほどもちょっと話がございましたけれども、コロナも、この3年間、コロナ、コロナでもう追い回されましたけれども、ようやくこの4月以降は少し落ち着きまして、病院も

やっと普通の診療に戻りつつあるところです。

今、三重県の病院協会のほうでも、もうとにかくアフターコロナにいかにかこれからちゃんとやって行こうかと、それにみんな焦点を合わせて、非常にある意味では逆に危機感を持っています。

多分、厚労省からの締めつけも厳しくなるでしょうし、それから、やっぱり、また同じようなことが起こったらどうするかという問題もありますし、ですから、やっぱりこれまでの経験を踏まえて、ぜひ、新しい対策を講じていかなければならないと思いますので、それには、ぜひ評価委員会の先生方の御意見を賜りまして、今年度の、また目標、あるいは次年度に向けて目標を作り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございます。

**【豊田委員長】**　　そういうことで、コロナが収まったら、またアフターコロナの対応をどうするかということで病院も大変な状況が続くということでございますので、評価委員の皆様、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、令和4年事業年度の業務実績、昨年度の業務実績ということになります。

それでは、事務局から業務実績報告書、1ページの桑名市総合医療センターの概要と2ページ、全体的な状況について報告をお願いします。

その後、引き続き、項目別の状況といたしまして、4ページから8ページにかけての中項目1、医療の提供について、法人の自己評価を含めて報告をお願いいたします。

じゃ、よろしくお願ひします。

**【藤井（保健医療課課長）】**　　それでは、令和4事業年度の業務実績報告書の内容について御説明いたします。

1ページ目をお開きください。

まず、桑名市総合医療センターの概要でございますが、昨年度から大きな変更もなく、記載のとおりとなっております。

2ページをお願いいたします。

全体的な状況、1、法人の総括と課題、こちらでは、令和4年度は経営の効率化、医療サービスの充実に努め、年度計画及び中期計画の達成に向けた病院運営に取り組んだこと。

新型コロナウイルス感染症が流行する中、桑名保健所や地域の医療機関と連携し、検査、診療体制の維持、整備を行ったこと。

令和4年3月に、三重大学、桑名市、桑名市総合医療センターで締結した新しい未来の

共創に対する協定を結び、AIを活用した診断支援など、医療のDX化への取組を開始したこと。

令和4年度の経営状況としては、コロナの影響が続く中、延べ入院患者数による1人1日当りの入院収益が上昇、また、1人1日当たり外来収益も上昇し、医業収益が前年度実績を上回ったとともに、病床確保の補償など各種補助金等の交付があったこと。

また、その影響から令和4年度の減価償却前利益は16億2,900万円、当期純利益は2億1,600万円、経常収支比率は101.5%になったということ。

感染症の収束後を見据え、安定した財務基盤の構築に向けて、さらなる収入の確保と費用節減が課題となっていることの記載がございます。

次に、2、大項目ごとの特記事項につきましては、各項目で順次説明をさせていただきます。

次に、4ページをお願いいたします。

項目別の状況につきましては、小項目ごとに実施状況と、それに対する法人の自己評価を、参考資料の2、地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価基準にあります評価基準に基づいて自己評価をしていただいております。

それでは、順に説明いたします。

大項目第1、住民に対して提供するサービス、その他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置、中項目1、医療の提供、小項目(1)重点的に取り組む医療の実施、a、救急医療につきましては、輪番病院として二次救急医療に従事しており、脳卒中センター及び循環器センターでは365日24時間体制を継続しております。

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、救急室に陰圧室を増設し、救急車搬送患者の積極的な受入れを継続し、受入れ件数は4,204人と前年度より増加し、計画値を上回っております。

b、がん医療につきましては、がんセンターボードを定期的を開催し、治療方針に関する意見交換の検討を行っています。

また、令和4年4月1日付で、がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんに関する情報提供の継続や市民へのがん予防啓発活動も行っています。

がんに係る手術件数の実績は659件、全手術件数の実績は3,260件で、感染対策のため予定手術を延期した前年度より増加しましたが、計画値は下回っております。

c、脳血管障害、循環器疾患、消化器疾患、運動器疾患につきましては、脳血管障害及

び循環器疾患につきましては365日24時間体制での救急対応を継続しています。

また、カテーテル治療、鏡視下手術など低侵襲医療を推進しています。

疾患別の患者数につきましては、コロナ収束を見据えて高い計画値を設定したことで、計画値を下回っています。疾患によっては、医師数の減で前年度を下回った疾患もあります。

d、周産期医療及び小児医療につきましては、NICU12床を運用し、高度医療及び専門医療の提供を継続しています。

また、三重大学の要請で、コロナ陽性患者の分娩を8件扱っております。

分娩件数の実績は328件で、前年度実績を上回りましたが、計画値は未達成となっております。

小児のレスパイト入院については2件、受入れを行っております。

以上、項目によりまして、計画値を達成しているものと未達成の項目とがございますが、総合的に見て、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

続きまして、6ページをお願いいたします。

小項目の2、地域医療連携の推進につきましては、地域の医療機関から多くの紹介患者をいただいていることにより紹介率は90.9%、逆紹介率は115.8%で共に計画値を達成しております。

地域連携パスにつきましては、県で開催される地域連携カンファレンスの参加や連携医療機関との定期的な情報交換により、その運用を推進しております。

脳卒中の地域連携パスの利用は前年度に比べ減少しておりますが、計画値は達成、大腿骨頸部骨折の地域連携パスの利用は前年より増加し、計画値も達成しています。

そのほかにも、地域の介護・福祉施設と連携し、患者の急変時の受入れや退院後の支援者を交えたカンファレンスを開催し、退院調整に努めています。

以上のことから、計画を大幅に上回っていると、法人の自己評価は5となっております。

続きまして、小項目3、災害時及び重大な感染症の流行時などにおける医療協力につきましては、地域災害拠点病院として、さらなる資機材の充実や緊急時連絡体制の強化に取り組んでいます。

また、DMATの災害時派遣に備え、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練などに参

加し、病院でも災害対策本部設置訓練を実施しています。

新型コロナウイルス感染症に対しても、発熱者専門外来や抗体カクテル療法外来などの設置、休日を含めた検査及び診療体制の整備を行うとともに、県の重点医療機関として、1病棟を感染症専用病棟に充て、他市町からの搬送を含む搬送患者の受入れを行っております。

以上のことから、計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

以上が中項目1の説明となります。よろしくお願いいたします。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

それでは、中項目の1につきまして、小項目ごとに委員の皆様の御意見を伺ってまいりたいと思います。

それで、よく御存じのことと思いますが、5、4、3、2、1の点数の意味といいますか、5が年度計画を大幅に上回って実施している場合です。4が年度計画を上回って実施している。3が年度計画を順調に実施しているとなっております。2が年度計画を十分に実施できていない。1が年度計画を大幅に下回っているということとなっております。

それから、本日、御欠席の西村委員からは、事前に西村委員の評価点を報告してもらっておりますので、西村委員の評価点につきましても、併せて御紹介申し上げまして、この委員としての評価点をつけたいと思います。

それでは、まず、重点的医療の提供という中項目の中の小項目、重点的に取り組む医療の実施、自己評価が3となっておりますが、いかがでしょうか。

伊佐地先生、何かございますか。

**【伊佐地委員】** 確かに目標値をちょっと高くしてしまったところがあるんですよね。脳血管とか循環器、消化器疾患、これをもう少し下にしておれば。

**【豊田委員長】** だから目標の設定というのは難しくなります。

**【伊佐地委員】** 目標が、かなり上に上げたんですね、これね。

**【豊田委員長】** 低く設定すると、また甘過ぎるじゃないかと批判されますし。

**【伊佐地委員】** あと、ほかのところはちゃんと目標値、令和3年との比較しましても、大体多いんですよね。いわゆる目標値を無視すると、かなり増えているということで、私は3にしたんですけど、4という考え方もあるかなという気もしました、令和3年と比べると、目標値じゃなくてね。

【豊田委員長】 ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

西村先生は、ちなみに3という評価であります。自己評価どおり。4という評価もあり得るかもしれないですけどね。

【伊佐地委員】 そうですね、ちゃんと目標立てて、1年。もうコロナは終わると思ったのと違いますか。

【豊田委員長】 そういうことですが、どうでしょうかね。取りあえず3にして、また、後で4に引き上げるかどうか、ちょっと検討させていただいて、次に進みます。

次の地域医療連携の推進ですね。

これは5、年度計画を大幅に上回って実施しているとなっております。

これ、紹介率と逆紹介率が非常に素晴らしい数値なんですよね。これはなかなか立派なもんだというふうに思います。そういうことで自己評価5となっておりますが、いかがでしょうか。

永藤さん、何かございますか。

【永藤委員】 ただの高い数字なので評価が5でいいと思うんですけども、これだけ高い評価になる理由というのがもしございましたらお願いします。

【豊田委員長】 そういう理由ですね。だから、逆紹介率115.81の、要するに直接お越しになった患者さんも地域へ紹介してフォローアップしてもらっていると、そういうことを意味していると思いますが、この数字を達成した御努力の経緯とございますか、そういうことをちょっと説明していただきたいということでございます。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 病院長です。いつもお世話になっております。

病診連携室が、医師会の先生とかそういう会議を開いて、開業の診療の先生と連携を取っているところで逆紹介を常にさせていただきますのでお願いしますというようなことをやって、診療部のほうに、外来の人数が大体一日800人ぐらいなんですけれども、それ以上増加しないように、重点外来という考えもありますので、逆紹介を推進するようというところで、病院として逆紹介を推進して、病診連携がきちんと連携を取っているというところだと思います。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

森下委員、何かございますか。

【森下委員】 すみません、大変目標値に対しては、素晴らしい数字を出していただい

ているんですが、ただ、一旦、ちょっとこれ令和3年度の実績に比べると、ほぼほぼ横ばいのような感じになっていて、逆に、連携パスも3年度の実績よりは下がっているという部分もあるんですけど、脳卒中とか、さきの一番上と逆に、これは逆に言うとあれですよ、目標値が。

【豊田委員長】 低過ぎる。

【森下委員】 失礼な言い方だと申し訳ないんですけどね。

ただ、さっきの1番目と2番目だと、これ、見たときに最初ぱっと思ったんですけど、その目標値に対して、客観的な数値として何パーセント上回ったんだよ、だから5ですよとか、そういう基準的なものがあると非常に分かりやすいのかなという気もするんですけどね。ただ、それに対して、特殊要因として、医療センターさん、こうやって頑張ったので、4なんだけど、これ5にしましょうとか、そんなやり方ができるとありがたいなと思いつつ見えていたんですけど、ただ本当に頑張っていた点については、高く評価をさせていただきたいなと思います。

【豊田委員長】 どうぞ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 逆紹介に関しましては、ドクターが、常勤のドクターが離職されるとか開業されるとかそういうことで、年度によってはかなりイレギュラーに増えたりすることとかがありまして、令和3年はそういう影響が出ている、逆紹介120というのはあまりにも高過ぎるので、このぐらいの数が、目標値ぐらいの数にしておかないと、ノーマルなのかなというふうに考えました。

【豊田委員長】 そうですね。これ、あんまりあれすると医療センターの経営にもマイナスになってくるということもありますので難しいところですね、目標の設定をどうするかというのはですね。

ということで、令和3年度より、令和3年度で120%というのは、これ、絶対数としてはかなりのものであって、それを計画では108%というふうに下げているわけですが、それを上回ったということですよ。

伊佐地先生、どうしましょう。

【伊佐地委員】 じゃ、これで、私、それでいいと思います。5でいいんだよ。ただ、去年の評価は幾つだったのかなと思ったんですけど、これ、平成30年度は紹介率47と逆紹介53とかなり厳しい数字だったので、この2年ぐらいの間ですごく皆さん努力されたので。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 去年も5です。

【伊佐地委員】 去年も5ですか。そんなやったらいいです。どうなっているのかなと思って。

【豊田委員長】 じゃ、一応、これは5ということにさせていただきます。

西村委員の御評価も5であります。

それで、次の小項目、災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力で、自己評価4とされておりますが、いかがでしょうか。

特に新型コロナウイルスの対策、去年、その前の前からも続いているわけですが、昨年の比率、新型コロナウイルス感染症の対策に全面的に御協力いただいたということでございますが、ということで自己評価4でよろしいですかね、これは。

西村先生も4であります。

では、そういうことで、最初の小項目、3のままか、あるいは4にするかということで、ちょっと意見が分かれておりますが、取りあえず、次の中項目に進んでいただきたいと思っております。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、8ページをお願いいたします。

中項目の2、医療水準の向上について、順に御説明いたします。

まず、小項目1、デジタルトランスフォーメーション（DX）の活用につきましては、令和4年度の年度計画から新設された項目となっております。

PHRの試験運用を令和4年3月より開始し、スマートフォンを用いて、画像や検査結果、処方などの医療情報を参照できるサービスの令和5年度の本稼働を予定しております。

また、三重大と連携し、胸部X線画像や内視鏡画像について、AIにより診断支援を行う仕組みの構築に着手しております。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、9ページをお願いいたします。

小項目2、高度・専門医療への取組につきましては、地域の中核病院として、循環器センター、消化器センター及び脳卒中センターの各センターの継続的な運用と摂食嚥下サポートチーム及び呼吸ケアサポートチームなど多職種によるチーム医療の提供に取り組んでいます。

以上のことから、年度計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

おります。

次に、小項目3、医師の確保につきましては、手術支援ロボット、ダ・ヴィンチを令和4年6月に導入し、9月に初症例手術を、年度中に27症例の手術を実施しています。

また、三重大大学の連携施設として、新規に日本リハビリテーション医学会の研修施設に認定されています。

ほかには、医師の業務負担軽減として、医療技術職による診療補助や医師事務作業補助者による症例登録業務の拡充を行っていたり、三重大大学と連携し寄附講座を設置し、血液内科と精神科に常勤医師を確保しています。

また、女性医師の育児支援や職場復帰支援として短時間就労制度を実施するほか、医師が不足している診療科は、大学等関係機関と連携し、医師の確保に努めています。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、小項目の4、研修医の受入れ及び育成につきましては、初期研修医を12人受入れ、専攻医17人を確保しましたが、計画値は未達成となっております。なお、令和5年度4月には、初期研修医14人の受入れを予定しています。

以上のことから、計画をおおむね上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

小項目5、看護師の確保及び定着です。

看護師につきましては、感染防止のための教育実習の実施などに制約が生じましたが、9月より通常どおりの実習受入れを行い、新入職者の確保に取り組み、令和4年4月に3名の看護師、助産師を採用しています。

院内保育所については、職員の負担軽減を目的に、院内に専用厨房を整備し、令和5年4月から給食提供に向け準備を行っています。

常勤看護師の離職率は6.5%と低く抑えることができています。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

ここまでが中項目2の説明となります。よろしくお願ひいたします。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

それでは、中項目2の評価をお願いいたします。

全て小項目、4という判定になっておりました。

まず、8ページ目のデジタルトランスフォーメーションの活用、これ、自己評価4ですが、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 ちょっと、すみません、質問ですけど、このPHRというのは、これは、患者さんが使えるんですか、それとも医師が使えるんですか、これ。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 PHRですね。

これは、例えば、いろいろな血液情報とか、画像ですね、胸部写真とか、CTとか、それからあといろんな会計とかあんなのもそうです、処方とか、それは、全部患者さんが自分のスマホで見えるんです。

【伊佐地委員】 患者さんが見えるんですね。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 つまり、基本は、あらゆる患者さんの情報は本来患者さんのものであります。ですから、患者さんに還元するのは当たり前という。アプリも無料のアプリです。だから、スマホがあればできる。今も結構、桑名では今かなりの人が登録しています。

【伊佐地委員】 だから、自分のものが見られるということですね。自分のものが見られる。カルテを見られる。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 ええ、自分で見られます。

それと、このアプリを使って今進めようとしているのは、外来患者の会計システム、診療が終わった時点ですぐ会計がクレジットカードで落とされますので、患者さんはもう待たなくていい。

うちは、特に診療終わった後、会計でものすごく待ち時間が長いんです。大学は各階で計算しますよね。うちは全部下で計算するものですから、それでものすごくそこにかかるといいますか、会計の待ち時間が長いという。その解消にもなりますし、それから、いろんな面で患者さんも楽ですから、その機能をどんどん増やしていこうということで、非常に、私自身も使っていますけれども、便利なアプリです。

【伊佐地委員】 分かりました。

【豊田委員長】 永藤さん、いかがでしょうか。

【永藤委員】 今、DXの活用ということで、お聞きしたんですけれども、まだ導入段階で、なかなか効果が出ていないのかなと思ったんですけれども、実際にもう患者が見ているということで、効果が出ているんですか。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 医療DXですか。

【永藤委員】 はい、DX。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 例えば、ここに載っています胸部写真のAI診断というのは、僕は1年間ずっとやったんです。日本でやっている会社2社ぐらいの。大学のほうと一緒にやったんですけど、AI診断はまだまだ、胸部写真に関してはまだまだ手放して全部を任せられるというところまではいっていません。

それから、あとは、桑名で健康卓球をやっていましたね、城南地区で。あそこの卓球をやっている人が、今もずっと20人ぐらい見えるんですけど、その人たちにウェアラブルのいろんなもの、今日、朝のNHKのニュースでもやっていましたけど、ウェアラブルで血圧を測ったりとか、脈拍数とか、あるいは酸素濃度を測ったりとか。要するに、卓球をしながらその変化を見ていこうと。それがすぐ病院に飛んでくるようにしようとか、今、そんなことをやっています。それも今、実際ちょっと始めていますけれども。

ですから、まだまだ改良の余地はありますけれども、これからちゃんとやっていけばかなり行けるんじゃないかと。それから、結構どんどんベンチャーがやっぱりやりたいものですから、ものすごく東京からいっぱい来るんです、ベンチャーの方がですね。だから、そういう意味では非常に関係が出てくると思います。

【豊田委員長】 そうすると、永藤さん、先ほど、まだ試行段階なので評価4は3にすべきだという御意見でしょうか。

【永藤委員】 来年、うまくいったら4かなと思っていますが。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 来年は5を目指す。

【永藤委員】 4か5かなと。

【豊田委員長】 今年はどうか、去年は3なのではないかということですが、森下さん、どうでしょうか。

【森下委員】 私は、本当に積極的に取り組んでいただいでいて、早く本格稼働へ持って行っていただきたいなというふうに思っています。そういう点では、やっぱり取り組んでいただくという姿勢が一番大事なので、そういう点ではやっぱり僕は4やね。

【豊田委員長】 4でいい？

【森下委員】 ただ、あと、AIによる診断なんかは症例がどれだけ増えてくるかというところに影響していくので、これは、やはり三重大さん全体の中で。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 もちろんそうですが、私、三重県病院協会の理事長をやっていますので、例えばPHRのシステム、あと会計を持っていると、こ

これは伊藤学長（三重大学）も、本当にこれは何とか三重県全体へ広げたいと、ものすごい強い夢があって、僕は病院協会の理事会と総会で、これをやりましょう、やりましょうと一生懸命言っている。だから、結構、三重が全部先駆けでやれる、そういうシステムになると思っていますので、この1年、頑張ります。

【森下委員】 よろしくお願ひします。

【豊田委員長】 デジタル化につきましては、新型コロナのCOCOA、あんまりうまく起動しませんでしたし、マイナンバーのあれもちょっと国民に不信感を抱かされておりますので、そういう面では本当にうまくいくかどうかというのは若干の不安も感じるわけですが、しかしながら、先ほどもお話を聞いていますと、かなりこれ有用そうであると。今、試行段階ですが、今のところは特に問題なく動いているということですよ。だから非常に大いに期待できるのではないかなと思います。

では、西村委員の御評価も4でありまして、その期待を込めて4ということにさせていただきます。

来年はぜひ5という評価になるように実施をよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、次の高度・専門医療への取組ですかね。

これ、4ですが、いかがでしょうか。

これ、記載が少ないのでよく分からない面もあるのですが、年度計画を上回ってというのは、摂食嚥下サポートチームの取組が年度計画には書かれていないことをやったということで、4にされたんでしょうか、この辺りはどうなのでしょう。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 うち、やはりセンター構想というのをベースに持っていて、循環器センター、消化器センター、脳卒中センターというセンターがあって、それで、循環器センターなどの稼働件数とか、前年度よりも大幅に増加していたりすることがありまして、そういったことを含めて、高度といいますか、ホットラインというものを中心に、循環器、脳卒中等を24時間体制で診させてもらっていて、その中で、脳卒中もカテによるそういう血栓除去とか、そういうのを24時間体制で施行できるということがあるので、総合的に4にさせていただいたということだと思います。

【豊田委員長】 説明をお聞きすると分かるわけですが、ここに書かれている文章ですと、各センターを継続的に運用したという記載でありまして、それだと継続したというだけなので、特にちょっとこの文面からは4とは判断が難しく、3ということになるので

はないかという気もしたのですが、この記載からはですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですね。

【豊田委員長】 もうちょっと、これ、年度計画も含めて、この自己評価の判断理由の記載を、もうちょっと詳しくしていただかないとちょっと評価する方法としては、ちょっと決めにくいのかなと、そんなふうにも思われますが、先生、どうですか。

【伊佐地委員】 そう、そのとおり。私も、具体的にもう少し書いていただいたほうが、ちょっと今言われた、登内先生言われたことをちょっとそこへ付け足していただけると4という意味が分かると思いますので。

【豊田委員長】 これは修正可能なんです。これで、この文面で判断する。

【藤井（保健医療課課長）】 じゃ、この医療センターさんのほうで、こちらの文面を直していただけるということであれば、こちらで、そういうふうで受けさせていただきたいと思います。

【豊田委員長】 じゃ、次の回までに修正はしていただいて、これはちょっと次の回まで保留ということにさせていただきますよね。

それから、次が医師の確保ですね、医師の確保について4ということですが。

どうぞ。

【伊佐地委員】 ちょっとよろしいですか、少し具体的に書いていただいたほうが、三重大と連携し、寄附講座を設置することに、血液内科と精神科に常勤医師が各1名とか、そんな具体的に書いていただいたほうがいいかなと思ったんですけど。

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 各1名です。

【伊佐地委員】 これだと、何人か分からないので。

【豊田委員長】 これも次回までにちょっと修正をお願いしたいと思いますが、そういうことであれば、4ということでもよろしいですか、伊佐地先生。

これは、一応4にさせていただきますが、ちょっともう少し詳しく具体的に判断理由を書いていただきたいということでございます。

それから、西村先生の御評価も4になっております。

それから、次の小項目、研修医の受入れ及び育成ということですが、これ、よく分からないんだけど、計画未達成となったと書いてあるのに、計画を上回って実施しているの、4がついているのが、この文面だけからは、何か第三者から見るとちょっと矛盾するのかなという気もするわけですが。

【伊佐地委員】 具体的に後期研修17名というのは、これは昨年度でしょう。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 去年のです。

【伊佐地委員】 多いんじゃないですか。

【豊田委員長】 多いですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 計画値が20人なんですね。計画値が20人なので。

1ページ、めくっていただくと。

【豊田委員長】 ああ、20人にしちゃったんだ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ええ、しちゃったんです。

【豊田委員長】 目標は高く、そういう数字というか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 一昨年の計画値は13人だったので、一気に上がって。

【伊佐地委員】 ああ、それですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 上げちゃったんです。

【伊佐地委員】 だから……。そうですね。

【豊田委員長】 これ、だから、いや、十分、17人というだけでも、これはかなり頑張っているということになるわけですが、計画値を20人にしたので計画値未達成と。こういう場合はどう処理したらいいのかな。

こういう場合は商工会議所ではどうされますかね。

【森下委員】 一般的な部分でいくと、先ほど私も申し上げましたとおり、やっぱり客観的な数字は数字でちゃんと比較をしないと駄目。だから、そういう点では、これ、行っていないですね。でも、やっぱり前年の13から17に上がっているという。だから、さっきも言ったように、数字が何パーセントだったら駄目ですよと、これ、恐らく数字だけで言えば2ですよ、未達ですから。

【豊田委員長】 数字だけ、そうそう。

【森下委員】 だけど、17名も来たよと。これは加点していいですので、だから加点をしていきますというところで行くと、これは両方ちょうど寄ってかなというような感じですね。

【豊田委員長】 両方寄って3ということですかね。

【森下委員】 というその辺をこの辺で議論するというのが評価のやり方かなと思いま

すけど。

【豊田委員長】 永藤さん、何か御意見ございますか。

【永藤委員】 私、今の皆さんのお話をお聞きする限り、去年が実績値が13人で、計画値は20人だったんですけれども、17人になったということで、かなり専攻医の在籍は増やすのがなかなか難しいということを考えれば、増えたというのを実績として4でもいいんじゃないかなと思います。

【豊田委員長】 4でもいいんじゃないかと、この辺は、そうですね、委員の皆様は裁量感というのが要りまして。伊佐地先生、どうされます。

【伊佐地委員】 いや、僕は4でいいと思います。

【豊田委員長】 4でいいと。

西村委員は4です。

多数決で、この辺は委員の判断によって振れるところだと思いますが、多数決でこれは4ということにさせていただきます。

それでは、次の小項目、看護師の確保及び定着につきましては、いかがでしょうか。

この離職率6.5というのは非常に低い数値だと思います。多くの病院が非常に離職率を下げるために、非常に苦心しておりまして、看護師さんの確保もままならない病院も多数ございます。そういう中で離職率6.5に抑えて、看護師、助産師の採用も順調に進んでおるといのは、これは評価できるとは思いますが、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 一つ質問ですけど、看護師業務の一部を薬剤師、検査技師、臨床工学技士に移行する、何か具体的にはどんなことをされたんですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 病棟の薬剤の確認とかは、全て病棟に薬剤師が勤務しておりまして。

【豊田委員長】 なるほどね、前は看護師さんがやっていたんですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 はい。持参薬とかその薬の調剤のそろえとかも全て薬剤師がやっております。

工学技師さんが透析の回路のほうを全て調整していますので、それはCHDFとかECMOとかについて、全てMEさんがやっています。

【豊田委員長】 これ、ちなみに薬剤師さんの確保というのは特に問題なくなっておりますか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そこはなかなか難しく、やはりその町

の薬局さんに比べると、初任給というのは低いものですから非常に苦労しているんですけども、今回、今年度から奨学金を補助するとか、そういうシステムをつくりまして、何とか確保しようとするんですけども、福利厚生までの、お子さんがいらっしゃるところまで来ると、当院は保育所がいいものですから。いいというか、保育所がすごく利用しやすくなっているものですから残っていただけるんですけども、最初に入るときには、ちまたの薬局さんと比べるとやはり給料に差が出るものですから、非常に苦労しています。

【豊田委員長】 薬剤師ですね。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 薬剤師不足は本当に深刻でして、特に、南のほうで、南のほうの病院は軒並み薬剤師不足です。もう、病院なんかは、もう来年度から薬剤師がゼロになると、要は、もう全部辞めていくんですって、調剤薬局のほうへ行ってしまうということ。

だから、これも今後は、看護師の問題もそうなんですけど、薬剤師をちゃんと確保するというのが大きな1つの問題で、これは、ちょっとこの前、知事にもお話ししたんですけども、だから病院協会としても、やっぱりこの、特に人口過疎地での薬剤師不足というのは非常に大きな問題になっていますので、今後やっぱり対策を取っていかねばならない。しかも、都市部では、南ほど深刻ではないんですけども、やっぱりかなりそういうところは、どうしても、今、起こっておりますので、そこは、今後やっていかねばならないと思っております。

【豊田委員長】 私が所属しております鈴鹿医療科学大学にも、幾つかの病院さんから、薬剤師何とかならないかという相談はしょっちゅうございます。ただ、本学の卒業生を見ていると、やはり、ほとんどがドラッグストアか調剤薬局へ行きて、やはり先ほど理事長が説明されましたように、初任給がかなり違うようで、奨学金とか借金をして大学へ入っている学生も結構おりますので、そうすると、どうしても給与の高いほうへ行ってしまうという問題が生じていますね。薬剤師協会さんからも、三重県のほうに、地域の薬剤師確保のために何とか奨学金を県として検討してほしいという要望が出されておられて、知事さんもそれを検討中だというふうには聞いております。そういう状況ですね。

ちょっと話が脱線しましたが、これ、評価4ということですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃ、これ、評価4とさせていただきます。

それでは、次の中項目ですかね。よろしくお願ひします。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、11ページの下から始まって、12ページのほうになりますが、お願いします。

中項目の3、患者サービスの一層の向上について、順次御説明いたします。

まず、小項目1、診療待ち時間等の改善につきましては、地域医療機関との役割分担や予約制の導入により、待ち時間の短縮を図っていますが、外来患者の院内滞在時間について、実測調査を実施したところ、外来患者数は前年度より微減、滞在時間は僅かに短縮という結果になっております。

以上のことから、年度計画を十分に実施できていないとし、法人の自己評価は2となっております。

次に、小項目の2、院内環境の改善につきましては、4月より入院支援センターを開設し、年間4,888人の入院患者の説明を行い、様々な質問に対応することによって、患者さんや家族に不安なく入院していただくように努めています。また、4月に脳卒中相談窓口を設置し、専門的な対応を行える体制を整備しています。

令和5年2月からは、院内感染の予防に留意しながら、入院患者と家族の病棟での面会を限定的に再開しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目3、職員の接遇の向上につきましては、患者の意見に対し、接遇患者コミュニティ委員会にて検討し必要な対策を実施し、院内に回答を掲示しています。

接遇研究会につきましては、感染症の流行等を踏まえ、開催を延期しています。

以上のことから、年度計画を十分に実施していないとし、法人の自己評価は2となっております。

ここまでが中項目の3になります。よろしく願いいたします。

【豊田委員長】 この中項目は、自己評価が何か低い点数をつけられていて、かなり先ほどとは何か違うような感じもしますが、まず、診療待ち時間の改善ですかね。これについて自己評価2となっておりますが、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 これ、僕は、あれ、維持している、長くはなっていないですよ。

【豊田委員長】 悪くはなっていないですよ。

【伊佐地委員】 だから、3じゃないかなと思ったんですけど。これ、待ち時間って…。これ、平均値ですか。中央値？時間。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 中央値。

【伊佐地委員】 中央値ですね。

【伊佐地委員】 全部の滞在で2時間を切っていたら、僕も大学にかかっていますけど、大体それぐらいかかりますよ。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 大学も結構待たされますね。

【伊佐地委員】 だから、2時間やったらいいんじゃないかなと思う。入ってから出ていくまでですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 結構苦情が多いです。

【豊田委員長】 苦情が多い。苦情がね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 その2時間のやつも、待っている時間が長いので。

【伊佐地委員】 大学は会計が早いことは早いですよ。僕の場合は、まず採血に行つて、採血で大体1時間半ぐらいかかるから、それは別に出してから診てもらって、それから、確かに会計が早いから、何となくそこが短いといいのかもしれないね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 最後の会計が割と長いです。理事長が言われましたけど。それが多分苦情につながるのかなというふうに思っています。

【伊佐地委員】 大学は確かに早いです。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 大学も長いことかかる？

【伊佐地委員】 出てくるのは早いよ、会計。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 ああ、全体ではね。

【伊佐地委員】 だけど、前が長いですけどね。待っているのは。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 会計を出てからも、自動会計機も並びますし、ピークタイムは。なかなかそこは改善してこない。自動会計機、3台入れているんですけど、やっぱり10時半から11時半ぐらいまでは必ず待っている人がいる。

【伊佐地委員】 もうちょっと、あと2台ぐらい増やしてもいいかもしれない。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 高いんですよ。

【豊田委員長】 この辺は、一般の方々も感じる場所かもしれないので、永藤さん、どうでしょうか。

【永藤委員】 私も、ほぼ去年と同じということで、3でいいと思ったんですけども、まだ改善の余地がしていないということで、自ら2という評価をしたみたいで、2でいい

のかなと思いました。

【豊田委員長】 では、森下さん、どうでしょうか。

【森下委員】 私も、御一緒です。頑張っているなと思いますけど。

【豊田委員長】 数字は、悪くなってはいないんですが、自らそういう患者さんのクレームの状況とか、改善の余地はあるんだけどなかなかそれが実施できていないということで、非常に厳しく自己評価をされて2にされたということで、せっかく2をつけていただいたので、2ということにしましょうかね。

この辺のところの判断は、分かれるところだと思います。

西村先生は、実は、前年度に比し外来患者数が微減、滞在時間僅かに短縮とあるので、3でいいんじゃないかという御評価ですが、一応2ということに、自己評価どおりということにさせていただきたいと思います。

次が、院内環境の改善。

それが、これは3ですね。

計画の文言が、これ、ちょっと抽象的なので判断がしにくいという面もあるわけですが、おやりになっていることは、この運営がしっかりとやっておられるというふうに思います。自己評価どおり3でよろしいでしょうか。

じゃあ、3ということにさせていただきます。

西村先生も3です。

そして、職員の待遇の向上が2ということになっておりますが、これは、あれですかね、患者さんからのクレームが多いということでしょうか。自己評価が非常にストイックに2というふうにされたところですが、いかがでしょうかね、これ。

ただ、西村先生の御意見を讀ませていただきますと、待遇研修会をやむを得ない理由により開催延期となったものの、患者の意見については、回答の掲示及び対策の実施がなされているので、評価3でよいのではと考えると、こういう御意見をいただいております。おりますが、どうでしょうかね。やはり病院の中のストイックな自己評価では、やっぱり改善の余地がまだまだあるということでしょうか。

そういうことであれば、今後の改善の御努力を期待いたしまして、2ということにさせていただきますかね。自己評価どおり。

では、次の中項目ですかね。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、14ページをお願いいたします。

中項目の4、安心して信頼できる質の高い医療の提供について、順次、御説明いたします。  
まず、小項目1、医療安全対策の徹底です。

医療安全対策につきましては、医療安全管理委員会を中心に、委員会、部会などで医療安全対策を検討し、継続的に現場へフィードバックしています。

令和5年3月には画像診断及び病理診断報告書確認漏れ防止委員会を設置し、診断及び治療開始の遅延の防止対策を開始しています。

また、全職員を対象に医療安全研究会などを開催し、職員間の情報、知識の共有及び標準化を図っています。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、15ページになります。

小項目2、信頼される医療の提供につきましては、患者とその家族に関し、十分な説明の下、治療への同意を得ることを徹底し、セカンドオピニオンにつきましては、運用手順を定め、病院ホームページに公開しています。また、病院ホームページにて、ヒヤリハット件数の公開を行っています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目3、施設設備の整備及び更新につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、救急室に陰圧室を増設し、救急搬送患者の積極的な受入れを継続しています。また、化学療法室をはじめとする管理棟の空調入替えを行うとともに、西病棟廊下の照明設備をLEDに更新し、照度の確保と省エネ化を実現しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目4、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等につきましては、感染症の防止のため、市民公開講座、患者向け教室は中止しましたが、糖尿病週間の情報発信を行っています。

ほかにも、総合医療センターニュース、桑名市広報への毎月の記事掲載等で、各種疾患や感染症の説明等を行い、市民への医療や健康に対する意識の啓発に努めています。

また、医師が外部講師として小学校3校において、がん教育を実施しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっ

ております。

以上が中項目4の説明となります。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、14ページの、まずは、医療安全対策の徹底という小項目について、4となっておりますが、いかがでしょうか。

これちょっと質問なんですけど、インシデントレポートの件数で、これ5というのはかなり重大なインシデントだと思うのですが、5が、これが4件あるということで、これはどういうことがあったのでしょうか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 件数は2件で、2件なんですけれども、レポート数で数えていまして、その1件に対して、看護部から1つ、診療部から1つレポートがあって、2つが、両方とも、2件に対して、2本のレポートが出たので4という数になっていますが、また、その2件とも事故調査委員会がなされておりまして、その内の1件に関しては、外部の事故調査委員会へ行って、今もですけれども、原因究明していません。そういうふうですね。

【豊田委員長】 これ、かなり重大なあれですか、死亡につながった事故でしょうか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですね。

【豊田委員長】 伊佐地先生、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 そういうことであれば、5というのは在り得ることですので。2例ということですね、具体的には。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 2例ですね。

【伊佐地委員】 レポートは4件ですけど。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 レポートは4、診療部、看護部で1個ずつ出てきた、1つずつインシデントレポートが出たということになります。いずれも事故調が入っています。

【豊田委員長】 その評価4、やるべきことをやっちらっしゃるということでね、4にされたのかもしれないけど、上回ってということで死亡事故が2件あったということだと、ちょっと3かなという気もするのですが、にしておいたほうが無難かなと思われるのですが、どうでしょうかね、この辺。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 次年度、また頑張りますので、それで、それでというか、また、気を引き締めてやってもらいます。ただ、流れとしては、きちん

とやらせていただきました。流れとしてはそのような感じでやらせていただきました。

【豊田委員長】　そうですね、やるべきことは、きっちりやっておられるので、だから、死亡事故が起こったから2にするということはないと思うのですが、ただ、ちょっと死亡事故が2件起こったということで、4というのちょっとあまりにもちょっと、第三者から見て、ちょっといい点をつけ過ぎているのかなと思われる可能性があるのでは、3にしておいたほうがいいのかと、そういうことでよろしいでしょうか。

その次が、信頼される医療の提供で15ページが3ということですね。

特にインフォームド・コンセント、これについても順調にどうか。

【伊佐地委員】　ちょっと質問ですけど、この病院ホームページに、レベル別、内容別にヒヤリハット件数というのは、具体的には書いていないんでしょう。レベル、例えば3Aとか3Bが、何件とか、そういうことですよ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】　そのように書いています。

【伊佐地委員】　具体的には、ちょっと書けないですよ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】　そうですね、3Aが何件、4が何件という、そういう書き方です。

【伊佐地委員】　ということですよ。

【豊田委員長】　これも、まあ順調に行っているということで3ということではよろしいでしょうか。

じゃ、3ということにいたします。

次が施設設備の整備及び更新ですね。

これも3ということになっておりますが、いかがでしょうか。

【森下委員】　計画書のほうを読んでいると、患者や家族の意見等を踏まえという文言が入っているんですが、この対応した部分については、そういった要素はあったんでしょうか。それ以外に、また患者や家族のほうからこういった施設についての要望等はあるんでしょうか。

【豊田委員長】　これ、患者さんのアンケートとか毎年取っておられると思いますが、そういう中で、そういう施設設備についてあったのかどうかということですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】　まず、患者様のほうの意見というのは、病院に来られた方は分かるかもしれないですけど、院内のサインが非常に分かりにくいという意見が結構ありまして、苦情の大体多いのは、接遇とそれから院内のサインとそれから

待ち時間、大体この3つが非常に多くなっておりまして、ちょっとサインを見直すという作業に今かかっています。ちょっとサインが、何か、開院当時に5年は見直すなという何か、お話があったとか、なかったとかと聞いているんですけど、ちょっともう待てないので、少しサインを分かりやすくしたいなというふうに思っております。

ここに記載をしました陰圧室につきましては、コロナの患者さんが一気に増えたときに、陰圧室がないと対応できないということで、救急に1室あった陰圧室を簡易なものをもう一室増やしたということです。それから、管理棟の空調につきましては、2階のほうでケモをやっていますので、化学療法。そちらのほうは昔の山本病院さんの建物でしたので、順次変えていくということと、それから西棟も旧山本病院さんの建物ですので、今、順次LED化を進めているということです。森下委員のおっしゃいました患者様の意見でいくと、やっぱりサインのほうになるかというふうに、そういう認識をしております。

**【豊田委員長】** よろしいでしょうか。じゃあ、これは3にいたします。

次が、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等で、たくさんの実績が書いてありますが、これは、例年どおりというふうな解釈でよろしいのでしょうか。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** 実際に現場で対面で行えなかったということがありまして、例えば、糖尿病週間とかは、通常は対面で行ったりするわけですがけれども、それがちょっと難しかったということで、ポスターや案内モニターを用いた情報発信にということで、今年度になってからは、糖尿病教室とか、減塩教室とか、嚥下とか、肝炎とか、そういう教室が復活、コロナ前と同等に復活する感じになっています。

**【豊田委員長】** いかがでしょうか。自己評価は3ですが。

これ、例えば森下さんとか、この医療センターのこういった市民への周知といいますか、広報の取組は実感として届いておりますでしょうか。

**【森下委員】** よくやっただいているんじゃないかなと思いますよ。

理事長さんの月間のやつ、私も読ませていただいておりますけど、あと、できるとすれば、恐らくSNSかなという気はしますけどね。SNSの関係、ここで全然触れていないので、ホームページだけという形になっているので、もうちょっとその辺のところ、YOUTUBEというわけにはいかないでしょうけれども、少しSNSを使った発信の仕方があってもいいのかなという気はしますけどね。だから、それこそ理事長の部屋なんかはSNSのほうがいいかも。

**【豊田委員長】** 永藤さん、どうでしょうか。

【永藤委員】 情報発信はたくさんされていると思いますので、私はどちらかというところ3じゃなくて4かなと思っていましたけれども、ただ、何か対面で行っていないとか中止になったようなものもあるので、それ、どう評価するかで3か4かになるかなと思います。

【豊田委員長】 そうですね。

伊佐地先生、どう思います？

【伊佐地委員】 私も情報発信はされていると思うんですけど、コロナの影響で対面ができなかったということでは3でいいのかなと思います。

【豊田委員長】 そうですね。4に値するようなことをいっぱいやっておられると感じるわけですが、新型コロナのそういった影響、そして、SNSへも今後力を入れていただくということで、今回は3にさせていただいて、また来年度、4を期待したいと思います。

では、次は、大項目の2の業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置ということで、説明をお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 大項目の第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を策定するために取るべき措置について、中項目ごとに順次御説明いたします。

まず、中項目の1、適切かつ弾力的な人員配置につきましては、医師をはじめとする各職種において、必要に応じて常勤嘱託や短時間勤務を取り入れ、効率的な業務運営を図っています。

また、入院支援センターには、情報システム課を設置し、多職種による入院患者への支援充実や医療分野におけるDX化を推進することができています。

また、ダ・ヴィンチ導入に合わせ、医師を新たに招聘しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施していると、法人の自己評価は3となっております。

続いて、中項目の2、職員の職務能力の向上につきましては、人事評価制度の運用により、職員の業績や能力を反映した人事及び昇任管理に努めています。

ダ・ヴィンチの稼働に向けては、医師、看護師、臨床工学技士などが三重大学をはじめ、先進病院でのトレーニングを行っております。

看護部では、クリニカルラダーを投入し、人材育成を開始しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施していると、法人の自己評価は3となっております。

19ページ、20ページをお願いします。

次に、中項目の3、職員の就労環境の整備につきましては、働き方改革関連法の施行に伴い、有給休暇の確実な取得や時間外労働時間の削減に取り組んでいます。

また、職員1人当たりの時間外労働時間は10.2時間となっています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、中項目4、効率的な業務体制の推進と改善につきましては、院内ホームページを活用し、病院経営に係る課題や経営状況などの様々な状況の掲載やコロナ対策会議で決定した内容の迅速な掲載に努め、情報共有をしています。

また、令和4年3月30日に、三重大学、桑名市、桑名市総合医療センターにて、新しい未来の共創に関する協定を締結しており、AIを活用した診断支援などデジタルトランスフォーメーション化への取組を開始しています。

なお、公益財団法人日本医療機能評価機構による第三者評価につきましては、令和5年度に受審することとして準備に着手しております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、中項目の5、収入の確保につきましては、令和3年度の医業収益は119億9,500万円となり、予算計画には至らなかったものの前年度実績を上回っております。

また、適切かつ効率的な病床運用に努め、病床稼働率の向上を図りましたが、新入院患者数、病床稼働率共に前年度実績を上回っています。

また、1人1日当たりの入院収益及び外来収益は、集中治療室の稼働率の上昇や中等症以上の新型コロナウイルス患者の入院受入れ、外来化学療法の増加に伴い共に増加し、入院収益は計画値を達成しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

中項目の6、支出の節減につきましては、令和4年度の医業費用は137億3,200万円となり、前年度実績を上回っております。

診療材料費は、購入価格の削減に努め、対医業収益比率は前年度を下回り、予算計画を達成しています。

また、薬品費は、抗がん剤の使用量の増加及び高額化、新型コロナウイルス治療薬の使用に伴い前年度を上回り、対医業収益比率も上回っています。後発医薬品使用率は、数量

ベースで90%以上となり計画値を達成しています。

給与費は、前年度より支給額が増加しておりますが、対医業収益比率は、医業収益も増加したことから前年度より減少したものの、予算計画値には至っておりません。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が大項目の2の報告でございます。よろしくお願いいたします。

**【豊田委員長】** それでは、大項目の2の業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置ということで、最初が、適切かつ弾力的な人員配置で、18ページ、自己評価が3となっておりますが、いかがでしょうか。よろしいですか、3ということでもいいですかね。じゃ、それは、3と決めさせていただきます。

次の職員の職務能力の向上ですが、いかがでしょうか。

専門看護師、認定看護師の人数というのが書かれているのですが、これは、その前の年に比べてかなり増えているんですか。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** 前年度は、認定された看護師はいなかったと思いますが。

**【豊田委員長】** いなかった。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** 今年、今年度の話をして申し訳ないですけど、今年度は、認定も、特定技能看護師の養成もしていまして、数人増える計画を立てております。

**【中村（桑名市総合医療センター理事）】** 去年から1名減です。

**【豊田委員長】** 1名減ね。了解です。

**【中村（桑名市総合医療センター理事）】** 開業医さんに連れていかれた分を引かせてもらっています。

**【豊田委員長】** じゃあ、これも3ということによろしいですかね。

そうしましたら、その次は職員の就労環境の整備ということで、これは自己評価が4となっております。これ、かなり就労環境、さっき言われた働き方改革、これをかなりしっかりと実施されたということですかね。

この医師の働き方改革というのは非常に問題になっているわけですが、この点についてはどうだったんでしょうか。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** 勤怠管理をかなり徹底してやるようにな

りまして、それで時間外を会議に出して。医師の場合、医局・各科代表者会議とかに、上から順番にあれしたりして、勤怠管理を徹底したということがありまして、一昨年度、前年度に比べるとかなり減少しているというふうには思いますが。あと、有給休暇の取得を計画的に、年度末に重なってしまうので、春から計画的に取るようにとか、そのようなことをしたりとか、医師事務作業補助、医師、看護師の補助等の委員会を開いて、そういった事務作業を登録などしていただくとかそのようなことをしていますが、短時間労働とかその辺に関しましては、やはり院内保育園というのを直轄に変更して充実させて、非常に保育園がいいよみたいな、もう病児保育もあって、利用しやすい環境をつくったということが、理事長の申し出で、そういうような形に変えて、より働きやすい環境をつくっているというふうには思います。

【豊田委員長】　　そういうことで当初の計画よりも上回った取組がなされたと、そういうことですかね。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】　　ちょっとよろしいでしょうか、先ほど院長が言われた院内保育園ですけれども、昨年度までは業者委託やったんです。業者に。ほとんど業者委託ですか、県内のあれも知らんけど、見ても。

業者委託の場合、どうしても業者が真ん中に入るものですから、自分たちはこういう保育をしたいと、こういう保育園にしたいと思っても、その真ん中に入る業者がそれに対して、方向、こちらを向いてくれなかったら全然やれないんです。ですから、どうしても業者がどこまで僕らと一緒にやってくれるかという、でも、そのスタンスはなかったものですから、この4月からは自分たちは直営にしたんです。

だから、直営にしましたので、保育士さんたちも全部うちの職員になりました。自分たちで、もうとにかく保育士さんたちの声もすぐに伝わってくるし、こちらの方針もすぐに向こうにつながるようにすると。

それで、まず始めにやったのは園児の給食です。園児の給食を、今、うちに入っている給食の派遣、ゼネラルというところが入っているんですけども、そこに園児の給食を作ってくれと。大抵、県内のどこのところを見ても、給食はやるけれども、みんな、どこかの給食会社から提供してもらうわけですけども、うちは自分のところでやって、その代わりに、栄養のバランスを考えておいしいものを作ろうということ。それはものすごく看護師さんたちに喜ばれて。つまり、朝、弁当を作らなくてもいい。それは前からものすごくそういう声は強かったんです。だから、給食をやってくれということですね。だから、

自前にしたからそこができるようになった。ですから、もうじき病児保育も教育も始めようと思っていますし。

ですから、やっぱりこれもまた病院協会の話になりますけれども、この前、県内80病院で、院内保育園がありますかという、そういうアンケートをしたら、やっぱり3割ぐらいですか、あるのは。大体400床以上の病院になると公立も私立もほとんどあるんですけども、200床前後になりますと私立はほとんどないです。だから、みんなで一緒になってやったらどうか、そういう話もしていますからね。

やっぱり、今、働き方改革があって、少子化対策があって、これからものすごくやっぱり院内保育園って大事やと思うんです。これをちゃんとやらないと、なかなか医師、看護師を集めるのは難しいんじゃないかと。それが病院協会のほうで重点項目にしていこうということ今やっているところです。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

よろしいでしょうか。そうしたら、この項目は4ということでしょうか。非常によくやっておられると思います。

それから、次が効率的な業務体制の推進と改善ということで、これも4となっておりますが、先ほどのAIとかデジタルトランスフォーメーションのことも書いてございますね。それも含めてということだと思いますが、それから、病院貢献賞を創設されて、業務改善の実績などの募集を行われて、50件の応募の中から院内で選考した上位入賞者を表彰したということで、いわゆる企業さんがやっている改善活動にも通じることを病院でされたら、病院でやるというのは結構少ないかもしれないんですが、そういう取組をされたということで4となっておりますが、いかがでしょうか。この辺は、こういう改善活動については、森下さんが詳しいかも分かりませんね。

**【森下委員】** 改善活動をやるときに一番肝心なことは情報の共有なんですよ。その辺のところ、こういった形で表彰を行われたりとかいろんな形を取ってみるので、この辺り、本当に頑張ってみえるなと思いますよね。

あと、この三重大大学さんとの共創協定みたいな形でのこのAIを活用したいろんな形での取組、ここも開始をしたということになって、具体的にはどんな内容的なことでの、具体的な取組がスタートしたんでしょうか、このDX化の中のところについては。本格化するの5年度からということになっていますけど。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** 先ほどアプリによるパーソナルヘルスレ

コードの共有とか、そういうアプリをもう患者さんに入れていただいて、診療データをそのアプリで、患者さんも見られるし、医師も見られるというようなことですね。また、理事長言われたみたいに、それを、クレジットカードを紐づけして、支払いのほうにも使っていくだとか、あとAIを利用した画像診断で肺がんのチェックとか、内視鏡の早期がんの検出とか、今、プロジェクトを組んでやっております。

【森下委員】 それはやっぱり、これは年次計画あるんですか。年次計画は。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そのアプリのほうの登録のほうはもう、今年度は患者さんにやっていただいております、実際、数人患者さんで登録しております。

【森下委員】 この辺り、先ほども言っていますけど、具体的に目標をどの辺までにするかというのは大事なことです、じゃ、来年、ここに力入れて、ここの話合いをしようという形で、各診療科でお話をされているみたいですから、その辺りはより具体的に進めていただければと思います。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 分かりました。

【豊田委員長】 そうですね。年度計画をもうちょっと評価しやすいように作っていただくと、これ、毎年申し上げているかもしれないんですけど、よろしくお願ひしたいと思います。

業務改善に本格的に取り組まれたということで、4ということではないかというふうに思いますが、よろしいでしょうか。じゃあ、これは4とさせていただきます。

そうしましたら、次の5、収入の確保、3ということですが、いかがでしょうか。

去年は、コロナということがありますので、評価できないと言え、できないんですよ。ちょっと非常事態と言いますか、例年とは違う状況でありますので、ただ、計画値は、ほぼほぼ達成しておられますし、その前から増えていると、令和3年度から増えているということですので、3ということよろしいでしょうか。

それから、最後、6の支出の節減ですが、3ということになっております。

これも、計画値をほぼほぼ達成しておられるということですかね。

特に診療材料費の対医業収益比率13.4%を11.4%にしておられますので。ただ、令和3年度とほぼほぼ同じ程度ということですかね。ですので、これも3ということよろしいかと思いますが、よろしいですね。

では、予定の16時30分が近づいてまいりましたのですが、どうしましょうか。もう

ちょっと行きますか。

【藤井（保健医療課課長）】 第3まで行かせていただいてもよろしいですか。申し訳ありません。

【豊田委員長】 どうぞ。じゃ、もうちょっと、10分ほど延長して頑張りたいと思います。

【藤井（保健医療課課長）】 それではお願いします。

それでは、23ページからになりますが、大項目第3、財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置について御説明いたします。

適切かつ効率的な病床運用に努め、病床稼働率の向上を図ったことにより、前年度に比べて医業収入は増加しましたが、予算計画は下回っています。

しかし、コロナウイルス感染症の患者受入れのための病床確保に対する補償、PCR検査や休日のワクチン接種等の補助金などにより、営業収益は予算計画を達成し、令和4年度の減価償却前利益は16億2,900万円となっています。感染症の収束を見据えて、さらなる医業収入の確保と費用節減が課題となっている状況でございます。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価も4となっております。

以上が大項目3の説明でございます。よろしく御願いいたします。

【豊田委員長】 財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置ということで、自己評価は4ということになっておりますが、いかがでしょうか。

これは、令和3年度の実績値、減価償却前利益15億が、今回は16億に増えているということで、4になっているのかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

この辺りは、永藤さんとか、次回には、また財務諸表等との御評価いただきますが。

【永藤委員】 いろいろ補助金等の交付により医業収益が増えたということで、それがあるか、ないかというなかなか判断が難しいので、去年の実績値よりは上回ったということで4ということもありますので、来年度以降、補助金等少なくなったりしたときに、実際の収益があるか、どうかということが問われますので、今期はこれでいいんじゃないかと、来期どう見るかというところでいいかなと私は思います。

【豊田委員長】 森下さん、ちょっと難しいとおっしゃっていましたが、いかがでしょうか。

【森下委員】 もうまるっきり一緒なんですよ。

【豊田委員長】 同じですね。補助金の問題がありますので、何とも言えないという面があると。

【森下委員】 去年かなんか、評価できずとやったとき、1回ある。ありますよね。

【豊田委員長】 そうです。

ですので、去年も新型コロナの続きでありまして、補助金も入っておりますので、なかなか評価が難しい面があるということですよね。なので、非常に難しいのですが、一応、数字上は、令和3年度に比べて増えているので、自己評価としては4とされているということで、4でよろしいですか。ちょっと評価をなかなかしにくいわけですが。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 また、次週のときに少し説明をさせていただきます。

大体10億ぐらい、補助が、空床補助で入ってきますので、それが大きな一番の補助ですから、それを除いたときに減価償却前利益がプラスになるか、ならないかというのを私たちは1つの目標にして、当初の計画としては、減価償却前収益は、なかなかプラスにならないんじゃないかと、4、5年前には思っていましたので、やっぱりコロナ、たまたまということもあるんですけどもという感じです。

【豊田委員長】 分かりました。

じゃ、その辺のところのことはまた次回の本委員会で御審議をいただきたいと思います。

それでは、一通り評価をさせていただきましたので、本日の評価委員会としての評価を確認させていただきたいと思います。

評価点、ちょっと、まだ最終確定していない評価点もあるわけですが、その評価点とコメントを事務局から報告をお願いいたします。

【藤井（保健医療課課長）】 お願いします。

ほぼ法人の自己評価どおりで、評価をいただいておりますので、ちょっと、違うところをお願いいたします。

大項目第1、1の中項目1、医療の提供、小項目、重点的に取り組む医療の実施、こちらで今回引き上げるかどうかという御議論だったので、また、取りあえず3というところで一旦いいでしょうか。

【豊田委員長】 取りあえず3で。

【藤井（保健医療課課長）】 それから、同じく中項目の2、医療水準の向上の小項目2、高度・専門医療への取組、こちら、コメントのほうを修正してという御指示で

したので、また、次の会でということで保留と、続きまして、3、医師の確保につきましては、評価は4でよいということだったんですが、次までに、もう少し詳しくコメントをということで、それから、同じく大項目第1の中項目4、安心して信頼できる質の高い医療の提供の小項目1、医療安全対策の徹底のところでは、法人の自己評価は4のところ、評価委員会の評価は3ということで、コメントといたしましては、事故調査委員会と原因究明に努めるとか、そういう行うべきことは行っているところではあるが、死亡事故が2件あったというところで、評価を3とするというところでよろしいでしょうか。

【豊田委員長】 はい。

【藤井（保健医療課課長）】 それから、先ほど一番最後の大項目第3の財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置につきましては、評価は4でよろしいですか。それとも、これも次回にさせていただいたほうがいいでしょうか。

【豊田委員長】 次回の検討を見て、また最終的に判断させてもらうというふうにしましょうかね。そのほうが正確といたしますか、より適切な判断ができるかと思います。

【藤井（保健医療課課長）】 承知いたしました。ありがとうございます。

【豊田委員長】 以上ですかね。

そういうことですが、委員の皆様、よろしいでしょうか、そういうことで。今日のところは。

それから、何か御質問など、あるいは御意見などはございますか。よろしいでしょうか。また、何かありましたら次回がございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、特に御質問もないようですので、本日の議事はこれで終了させていただきます。

あとは事務局でお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 本日は長時間にわたり、また、時間を延長して申し訳ありません。ありがとうございました。

次回、評価委員会でございますが、この続きと財務諸表等の御意見というのがありますので、7月25日の午後3時から、場所はまたこちらの会議室ということになります。

資料につきましては、また引き続き使用しますので、御持参いただきますようよろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして終了いたします。本日はありがとうございました。

— 了 —